水でつなぐ「人、自然、文化」

滋賀県知事　嘉田　由紀子

琵琶湖・淀川環境号運転記念環境セミナー

平成２１年１０月２４日

（栗東芸術文化会館　さきら）

- 1. 琵琶湖のすがた
- 2. 琵琶湖を取り巻く課題と対策
- 3. 水でつなぐ「人、自然、文化」

Mother Lake

1．琵琶湖のすがた

琵琶湖は近畿1,400万人の命の水源

- 琵琶湖流域は、淀川流域の約47%
- 近畿約1,400万人が、琵琶湖からの水を水道水として利用

	流域面積	割合
淀川全体	8,240km2	100.0%
琵琶湖	3,848km2	46.7%

府県名	琵琶湖からの給水人口(H15)
滋賀県	1,102,737人
京都府	1,814,201人
大阪府	8,772,470人
兵庫県	2,667,211人
合計	**14,356,619人**

琵琶湖の多様な価値

●豊かな自然環境と生物多様性

- 60種以上の固有種を含む1,000種類を超える動植物が生息する、豊かな自然環境としての価値
- 約400万年といわれる長い歴史を持つ古代湖

固有種　ホンモロコ

固有種　ニゴロブナ

出展:琵琶湖博物館ホームページ

琵琶湖の多様な価値

●文化の多様性(食文化)を育む水産業

- コアユ、ニゴロブナ、ホンモロコ、ビワマス、セタシジミなどの魚介類を独特の漁法で獲る、水産業の場としての価値

アユ

エリ漁

セタシジミ

沖びき網漁

琵琶湖の多様な価値

●観光資源としての琵琶湖

- 年間約4,600万人が滋賀県へ来訪する観光資源としての価値

近江舞子水泳場

びわ湖大花火大会

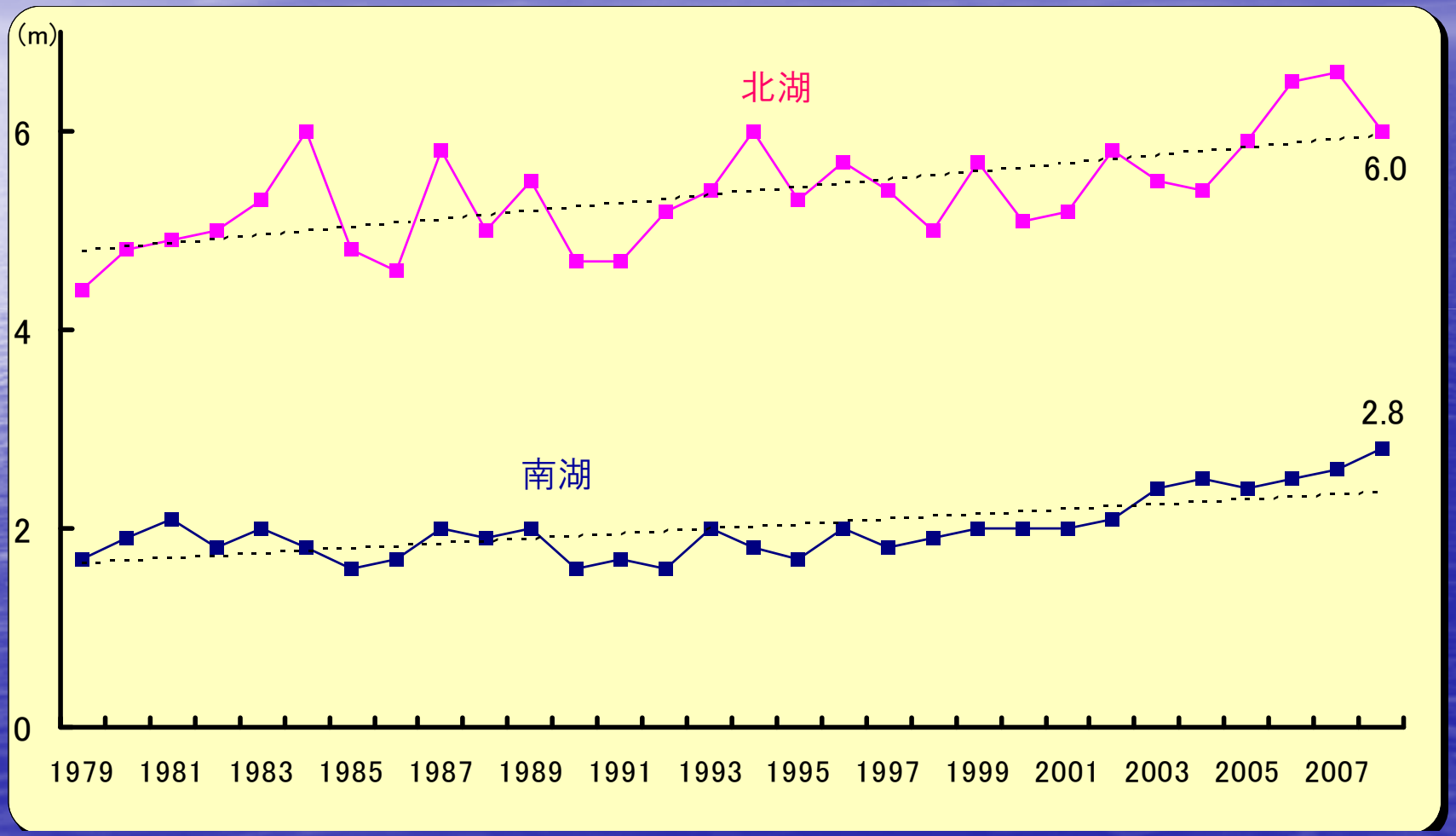
琵琶湖の多様な価値

●学術研究･学習の場としての琵琶湖

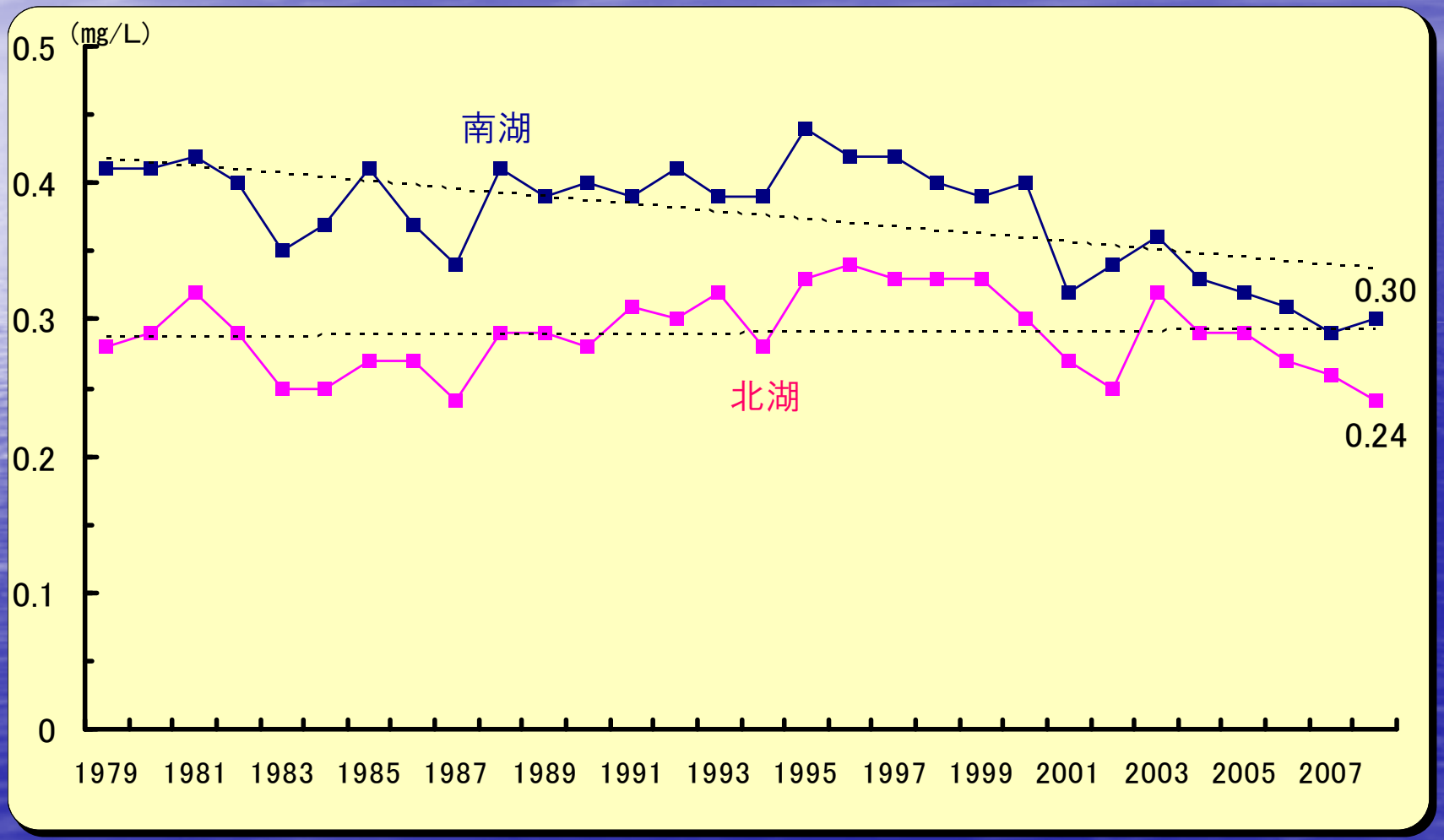
- 環境学習船「うみのこ」
  県内小学5年生を対象に、琵琶湖上で1泊2日の宿泊体験型の教育を行い、環境に主体的に関わる力や人と豊かに関わる力をはぐくむ。

２．琵琶湖を取り巻く課題と対策

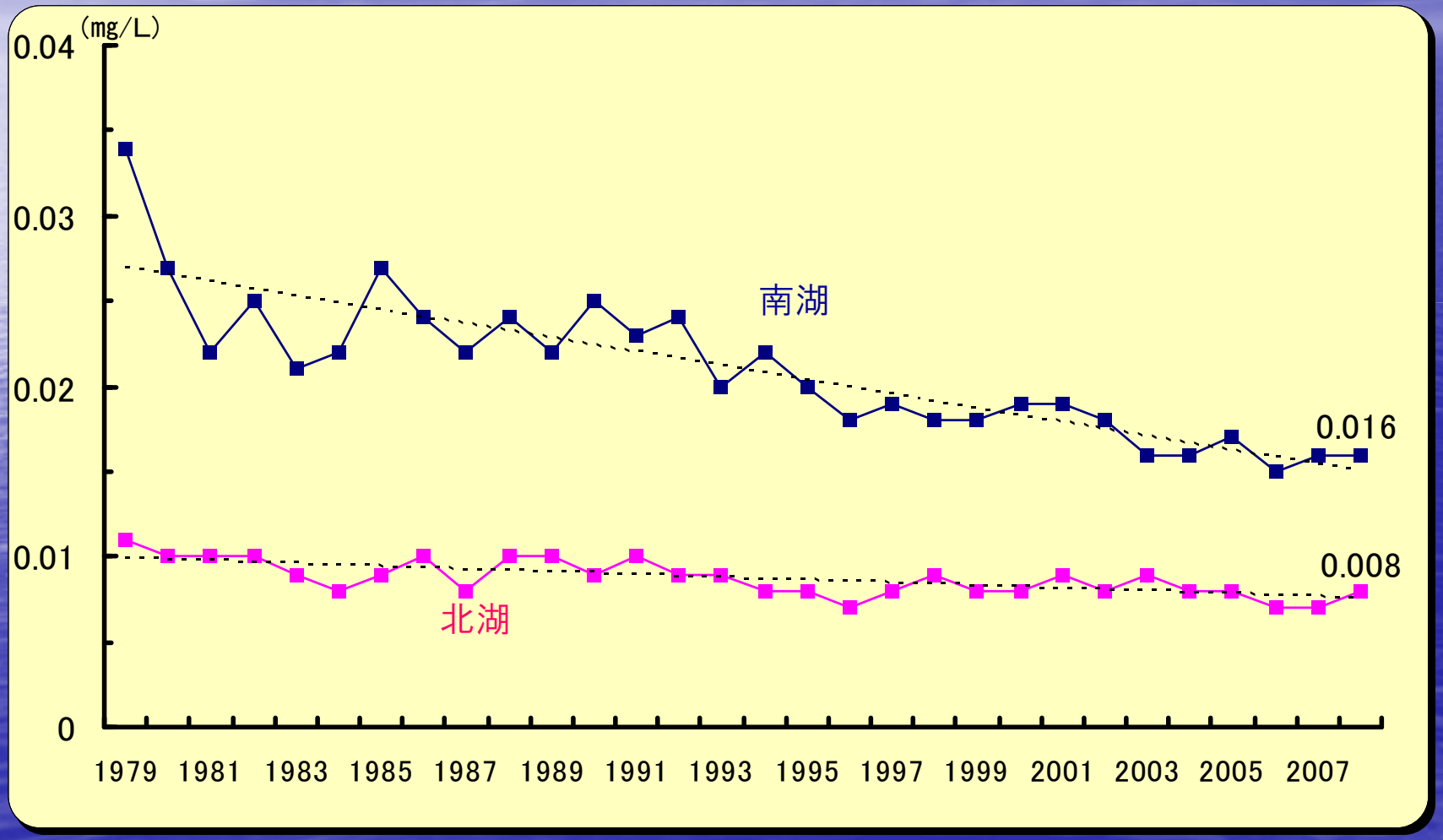
琵琶湖の透明度


(m)
6
4
2
0
北湖
6.0
2.8
南湖
1979
1981
1983
1985
1987
1989
1991
1993
1995
1997
1999
2001
2003
2005
2007

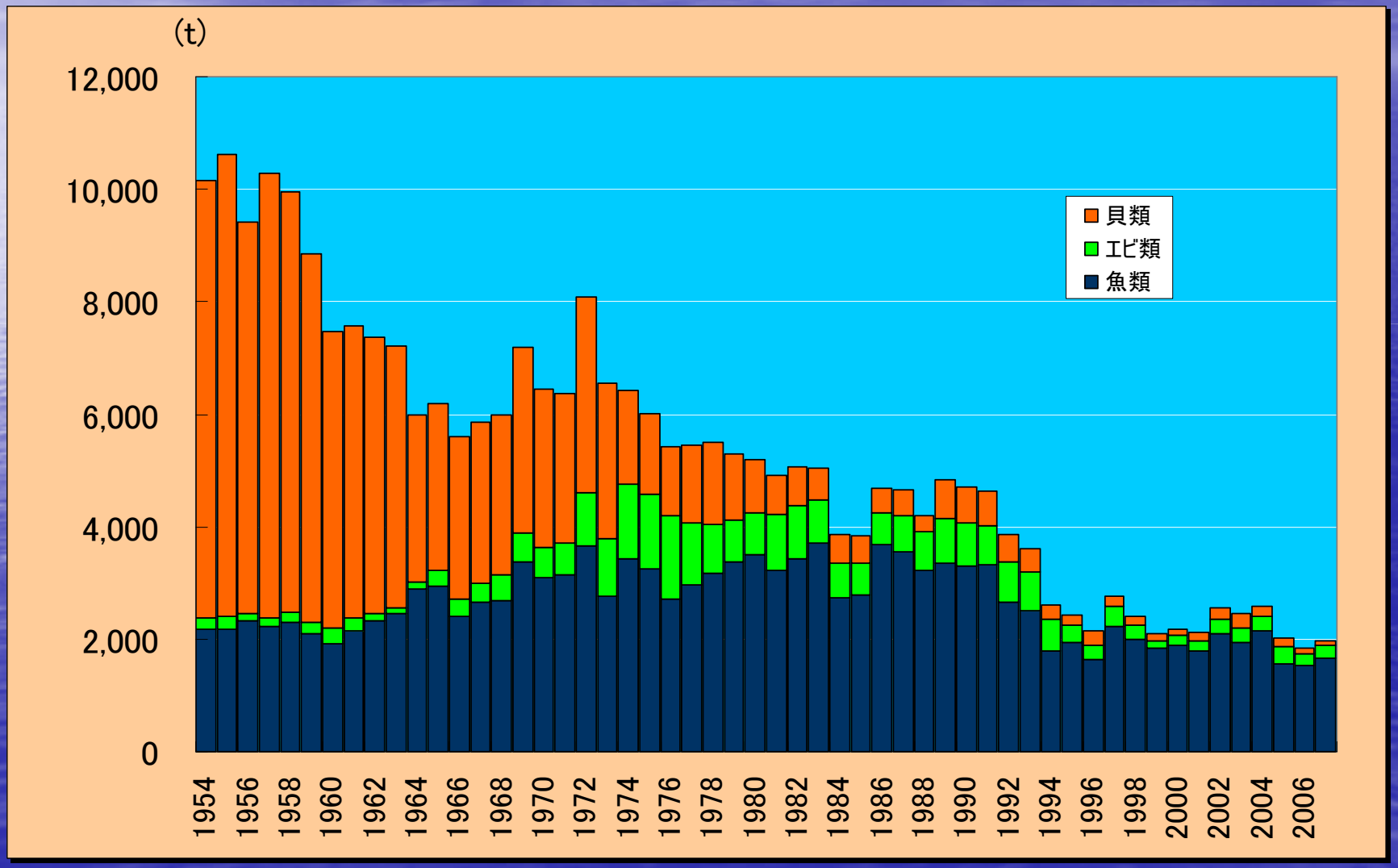
琵琶湖の水質（T－N）


(mg/L)
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0
南湖
北湖
0.30
0.24
1979
1981
1983
1985
1987
1989
1991
1993
1995
1997
1999
2001
2003
2005
2007

琵琶湖の水質（T－P）


(mg/L)
0.04
0.03
0.02
0.01
0
南湖
北湖
0.016
0.008
1979
1981
1983
1985
1987
1989
1991
1993
1995
1997
1999
2001
2003
2005
2007

漁獲量の推移


(t)
12,000
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0
貝類
エビ類
魚類
1954
1956
1958
1960
1962
1964
1966
1968
1970
1972
1974
1976
1978
1980
1982
1984
1986
1988
1990
1992
1994
1996
1998
2000
2002
2004
2006

外来魚の繁殖

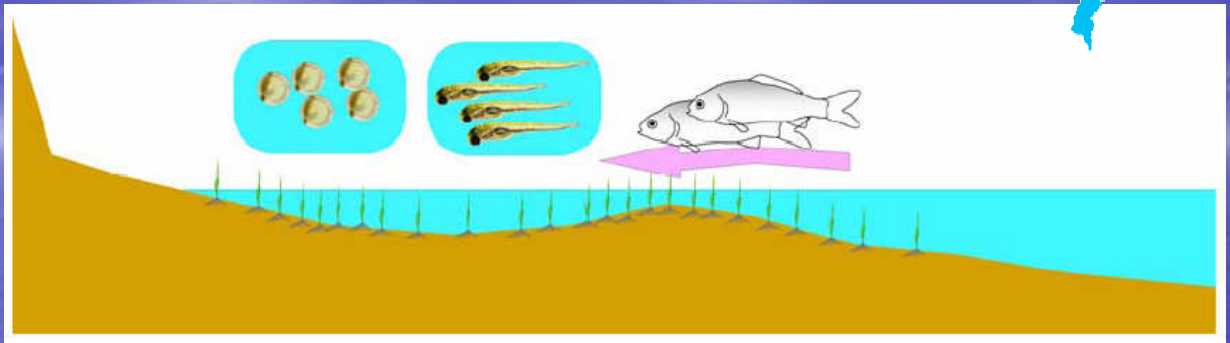
ブルーギル　Blue Gill
（北アメリカ原産）

ブラックバス　Black Bass
（オオクチバス）
（北アメリカ原産）

琵琶湖の水位操作

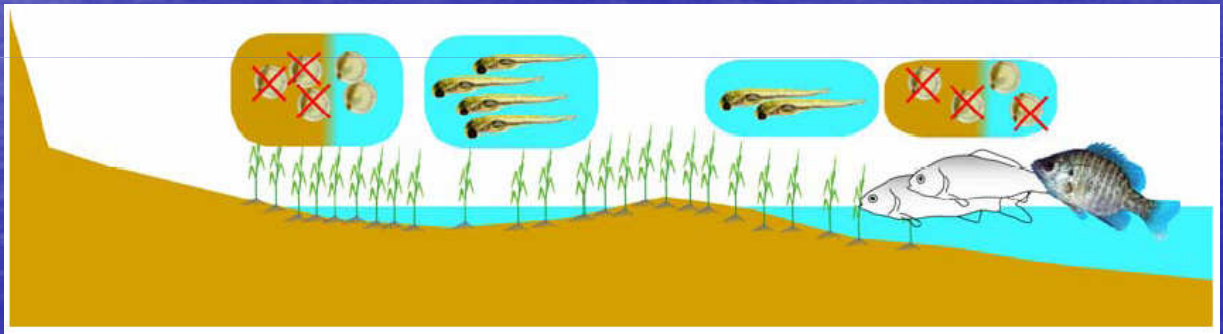
4～5月

フナ類はヨシ帯奥部へ移動（のっこみ）、産卵する。孵化した仔魚は畝によって波浪や外敵から守られ、良好に生残する。



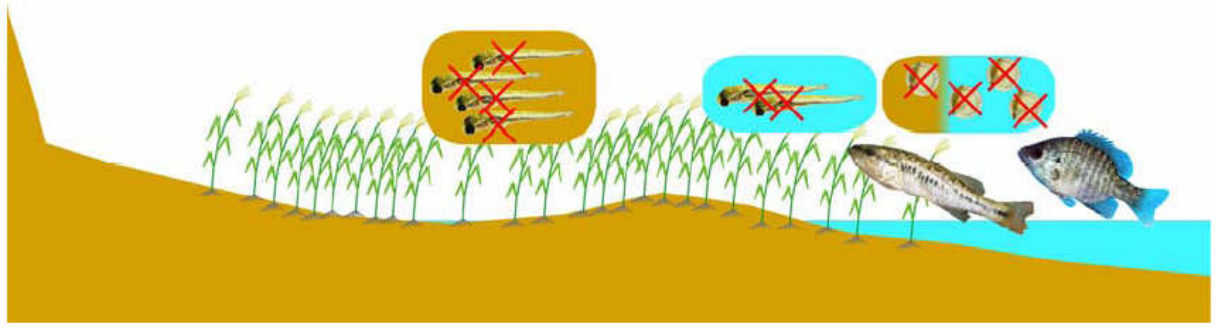
6月上旬

水位低下により一部の産着卵が干出する。ヨシ帯奥部は琵琶湖から分断されるが仔稚魚は引き続き良好な生残を示す。産卵はヨシ帯の縁辺近くで行われる。ブルーギルの産着卵への捕食圧が高まり、食害を受ける。



6月中旬以降

さらに水位が低下し、ヨシ帯奥部にとりのこされた仔稚魚が干出する。縁辺部では引き続き降雨後に産卵があるが、オオクチバス、ブルーギルの捕食圧が高まり、食害を受ける。



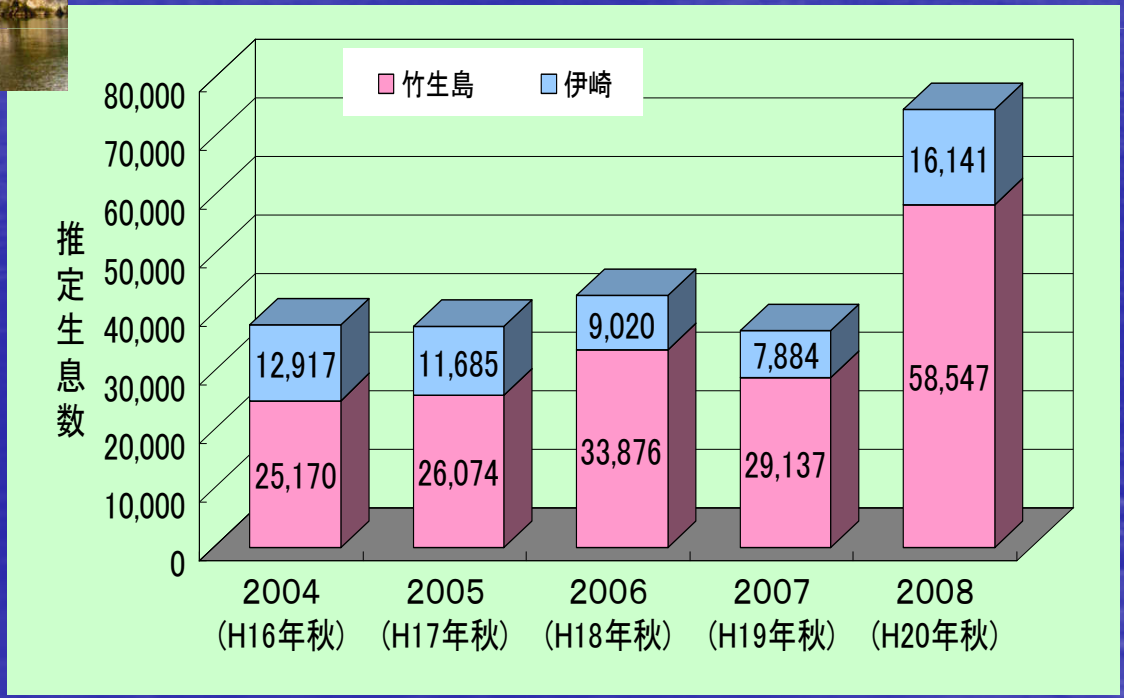
出典：琵琶湖河川事務所

カワウの繁殖

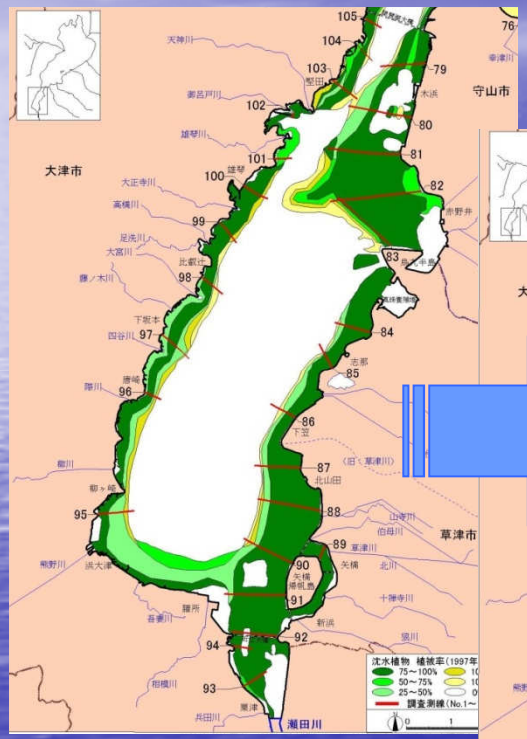
竹生島の状況

- 漁業被害
- 植生被害

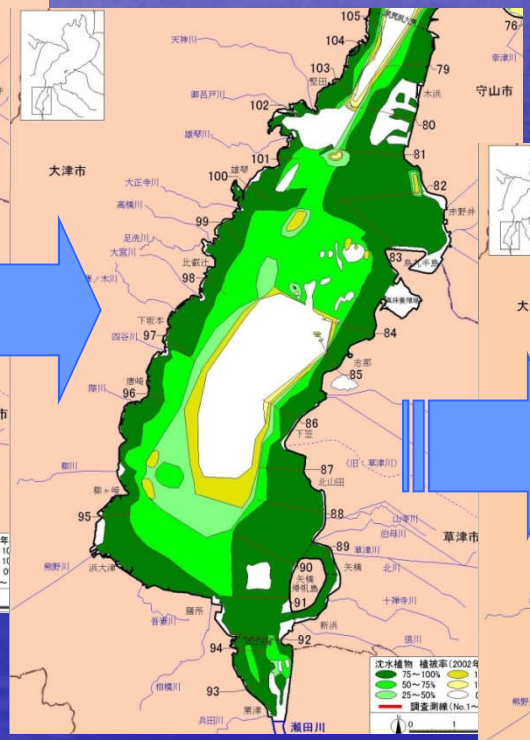
カワウの推定生息数の推移



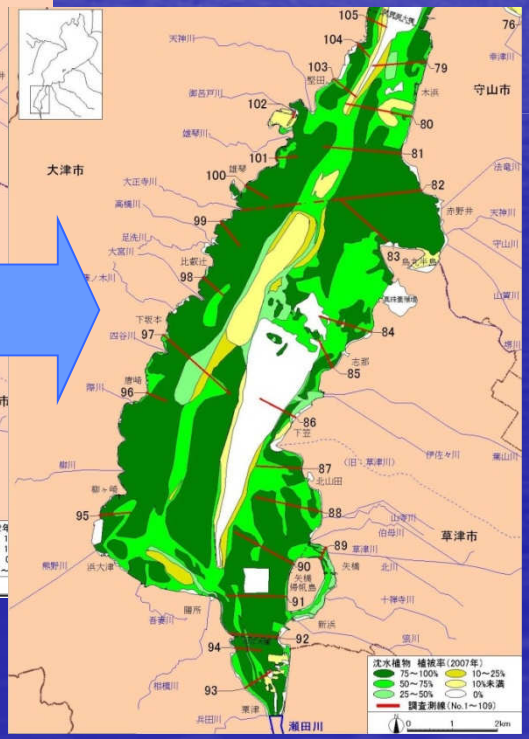
水草の大量繁茂



１９９７年(平成９年)



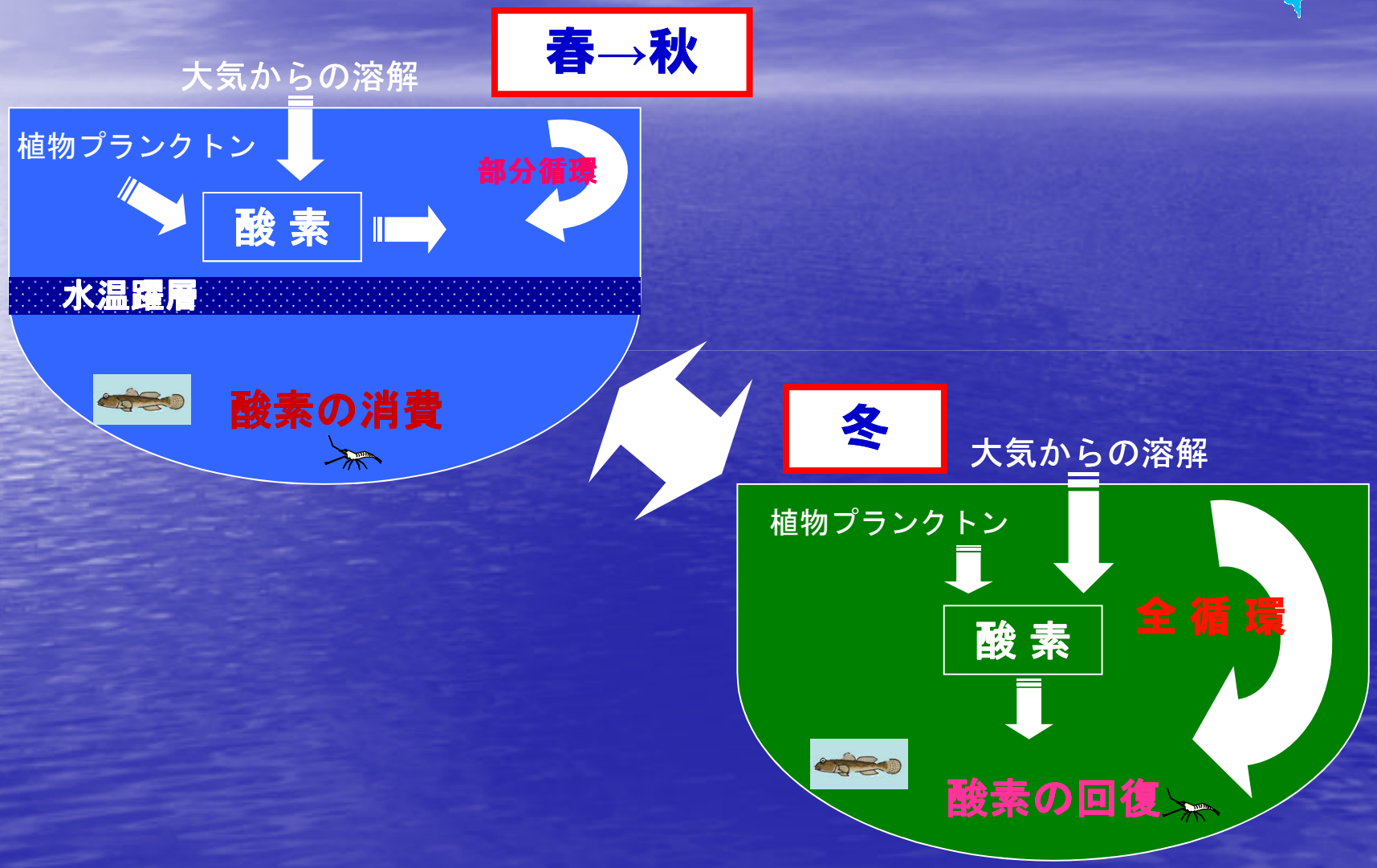
２００２年(平成１４年)



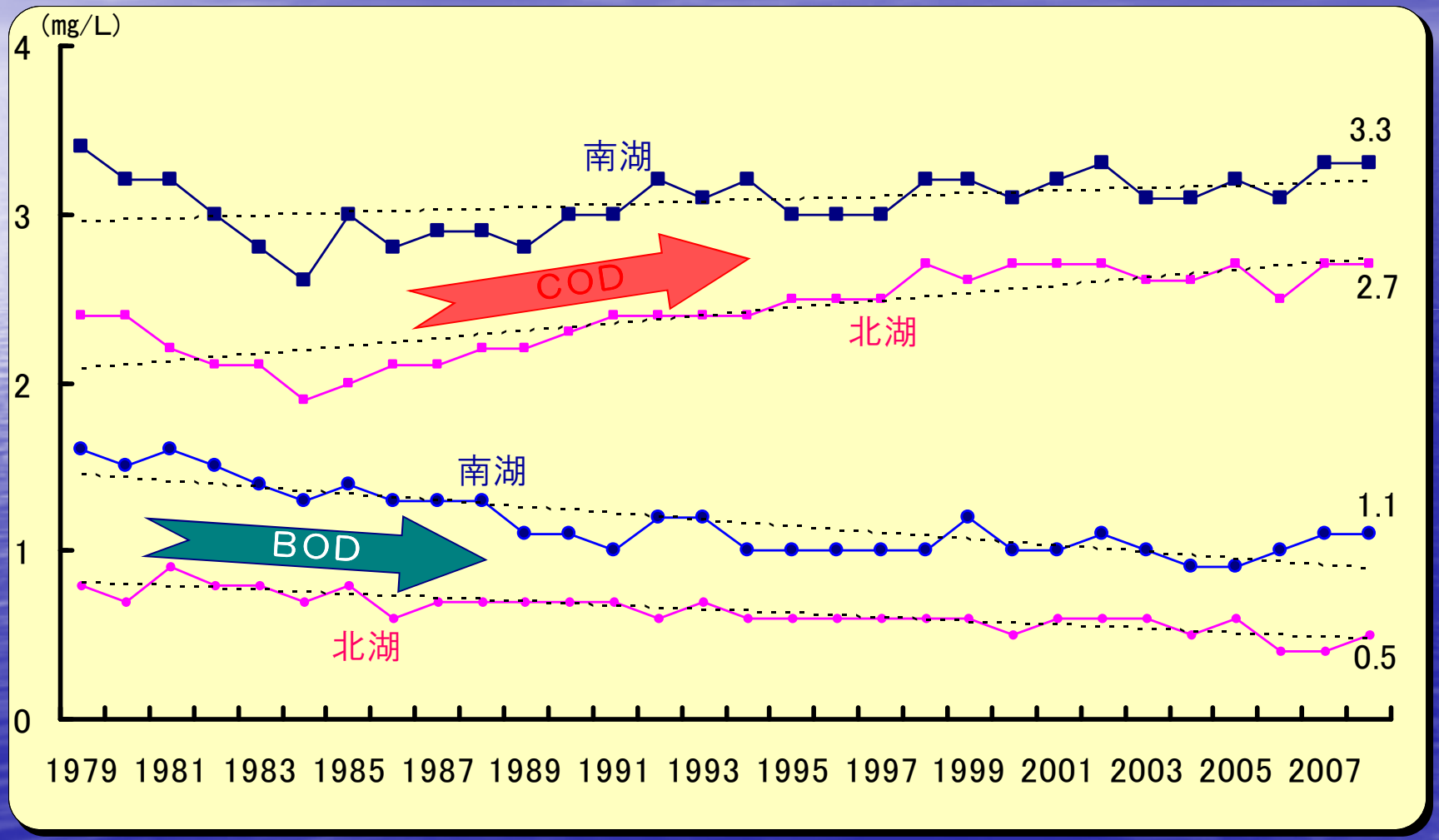
２００７年(平成１９年)

(独)水資源機構 調査

琵琶湖の全循環への影響



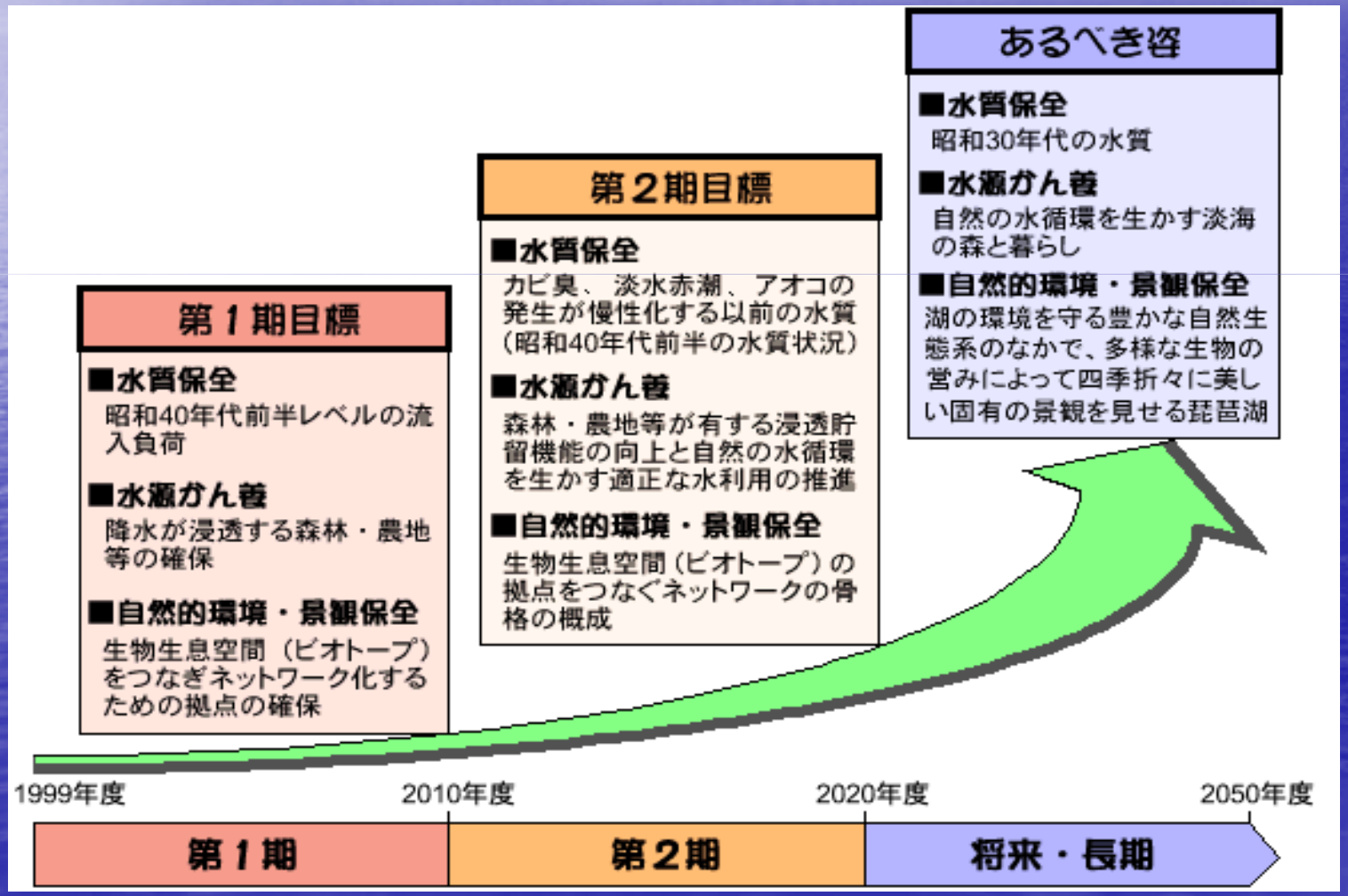
BODとCODの乖離現象



マザーレイク21計画

Mother Lake

マザーレイク21計画では、概ね50年後の琵琶湖のあるべき姿を念頭に、2010年度までを第1期、2020年度までを第2期として設定



琵琶湖保全に向けた施策等

- 琵琶湖レジャー利用条例

- 琵琶湖森林づくり事業

- 野生動植物との共生条例

- 魚のゆりかご水田プロジェクト

- ヨシ群落保全条例

- 下水道の普及

- 内湖の再生

Mother Lake

- 3. 水でつなぐ「人、自然、文化」

フィールドワークでわかったこと

人々がこだわりをもっていたのは水質そのもの以上に水との関わりの喪失だった

（１）多種多様な生き物

「この川にはホタルが顔にあたるくらいたくさんいた」

「ボテジャコがあふれるほどいた」

（２）生活の中で生きていた湖と川

「この川からは風呂水をくんで洗濯をした」

「この川の水は昔は飲めたのに・・・」

（３）子どもたちの遊び場としての水辺

「毎日、川に魚つかみにいった」

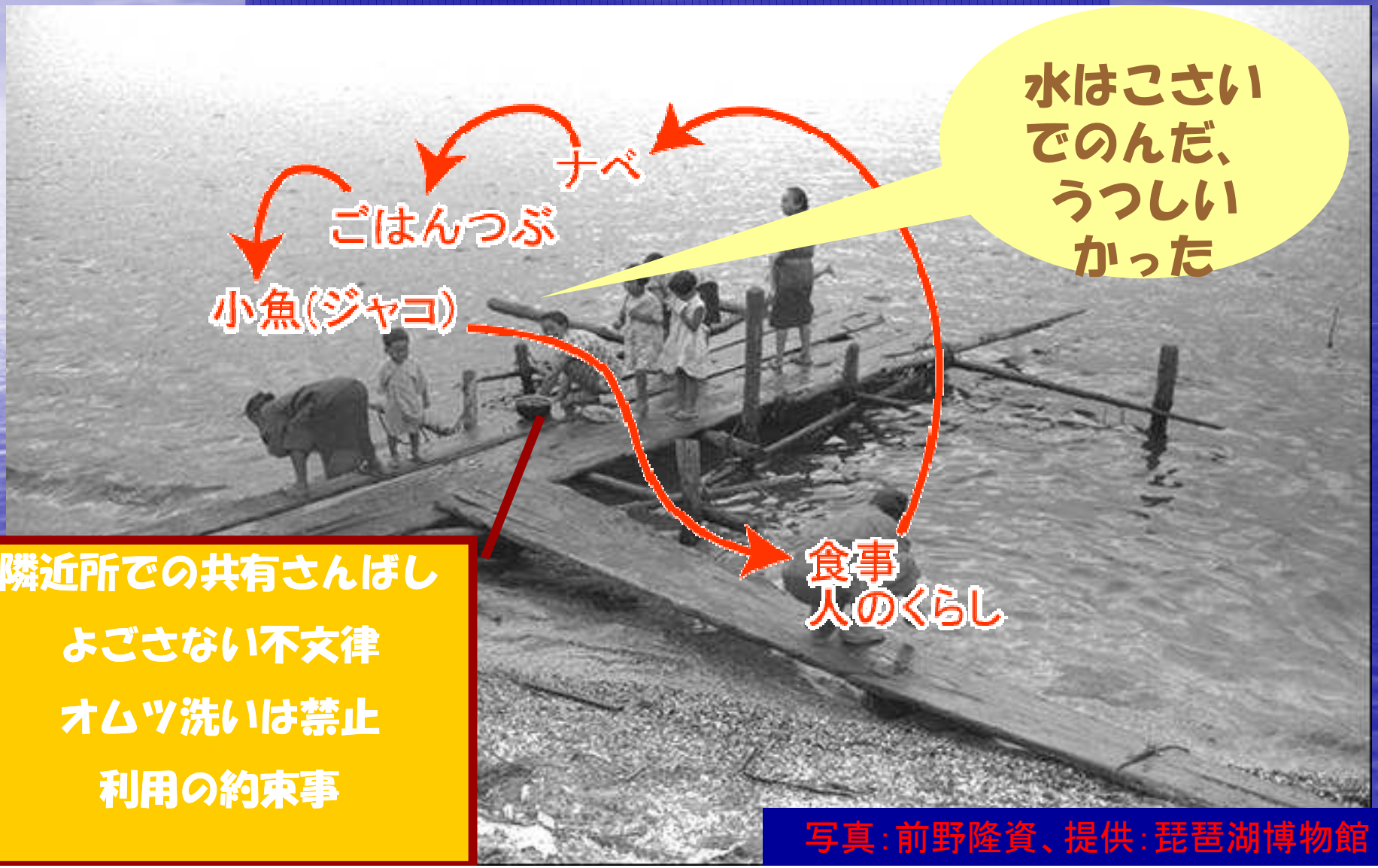
「えかい（大きな）ナマズをつかんだことはわすれられん」

（４）小さなコミュニティの自主的な治水対策と川への愛着

「大雨のとき、堤防の見回りを自分たちでした」

「堤防直しも自分たちでした。川は私たちのもの」

湖はよごれなかった？
湖岸の生活と生態システムの循環



隣近所での共有さんばし

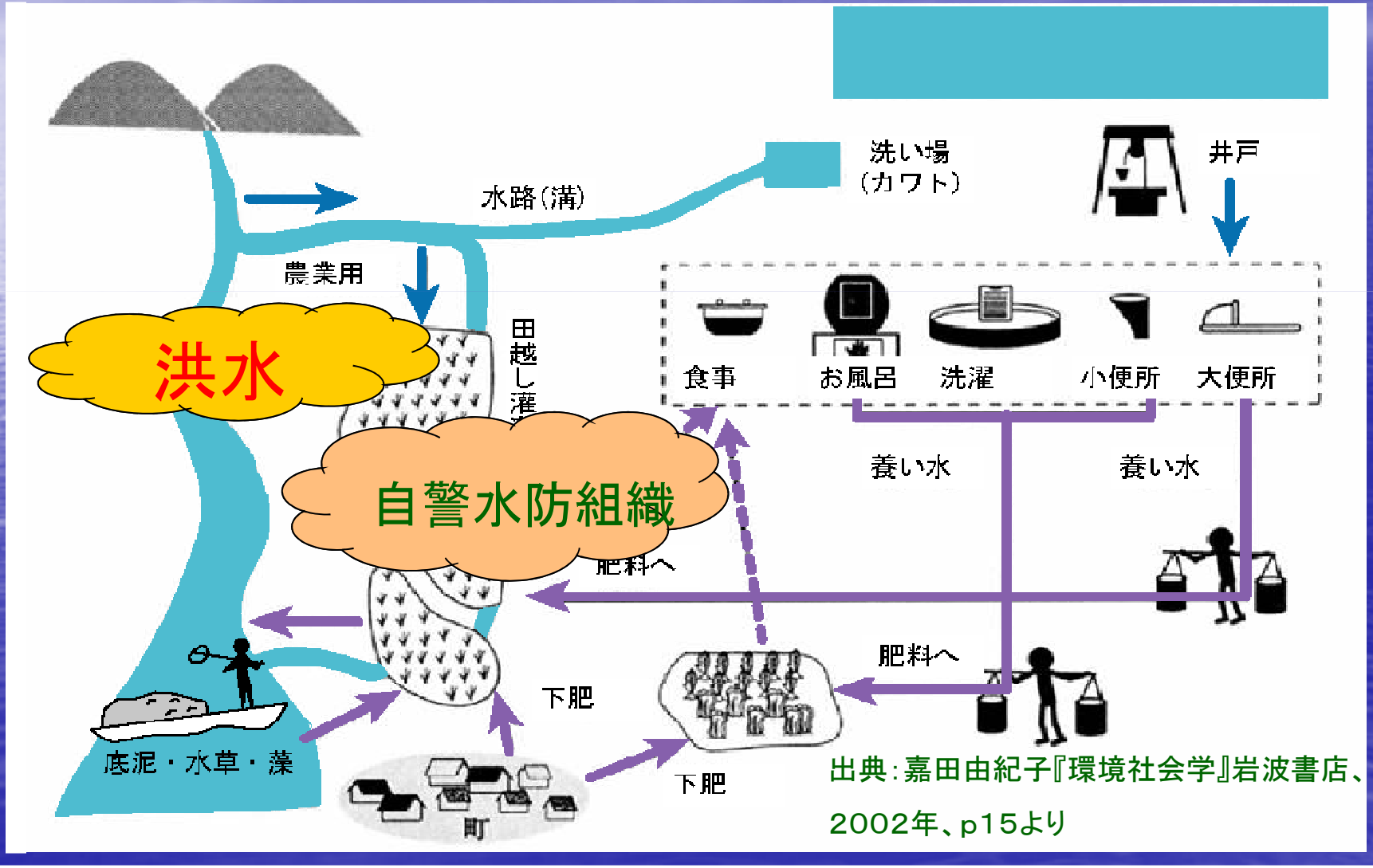
よごさない不文律

オムツ洗いは禁止

利用の約束事

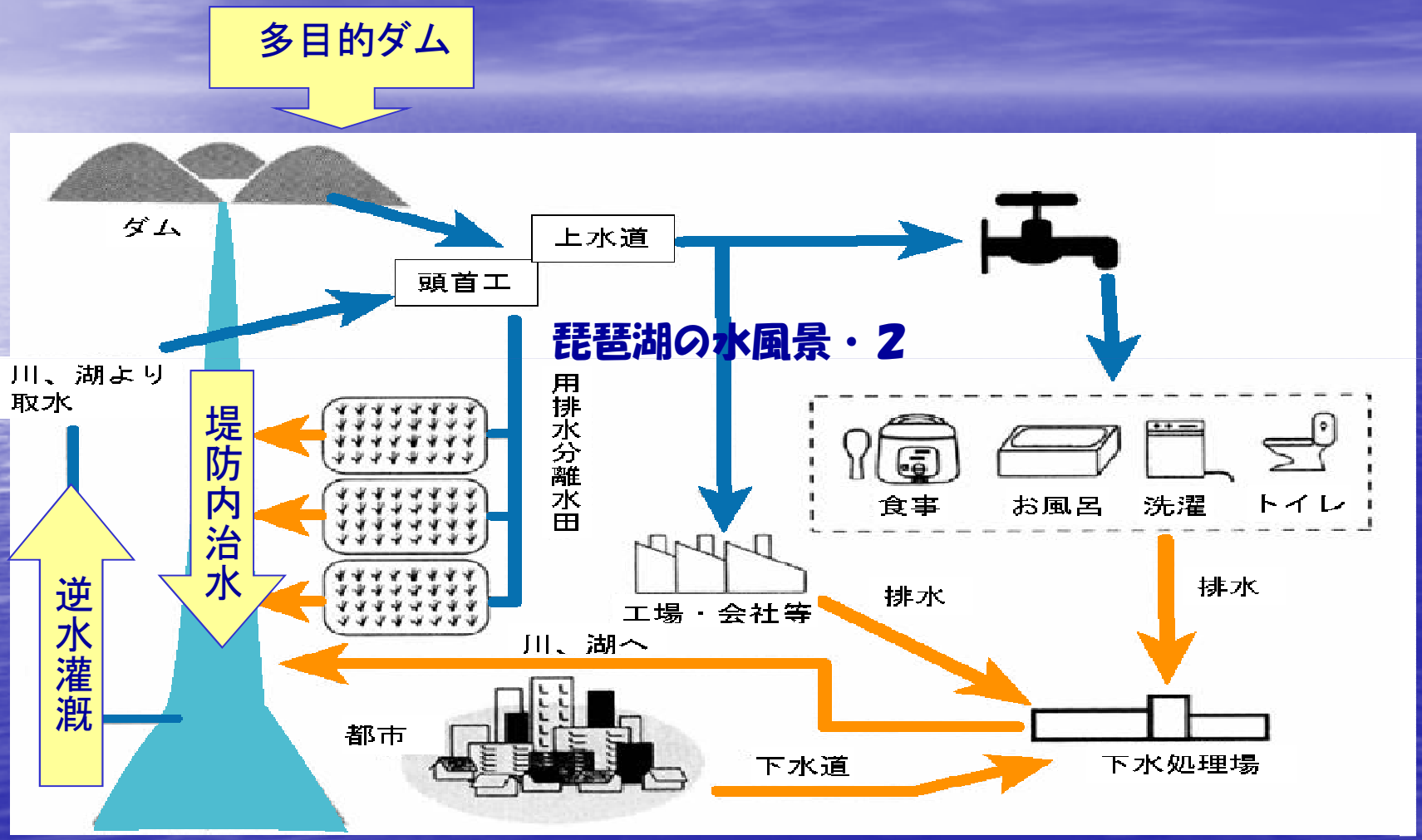
写真：前野隆資、提供：琵琶湖博物館

「近い水」:江戸−明治中期（昭和30年代まで）



出典:嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店、2002年、p15より

「遠い水」:平成期



出典:嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店、2002年、p15より

これからも誇りをもって
守りたい

琵琶湖と里山と
人びとの水辺の暮らし

「近い水」の再生
―水文化の多様性―

琵琶湖の水風景・1　カバタ

「カバタ」では
下流の人々に
排水で迷惑をかけないよう汚れものを流さない“はばかり”と“心使い”が生きている

生活世界の中の水

高島生水の郷針江・カバタ

琵琶湖の水風景・2　かなぼう

「かなぼう」は、水の湧き出ている泉および洗い場を総称した言葉

出荷野菜の水洗等に利用され、村人の社交の場ともなっている。

社会関係資本としての水

米原市世継

琵琶湖の水風景・3　棚田

・用排水を分離せず、上の田から下の田へ水を流す「田越し」の典型である「棚田」

・トンボやカエルを育てる水田

文化の多様性＝生物の多様性

仰木の棚田と琵琶湖

「飲水思源（いんすいしげん）」

水を飲む時には、水の来た源のことを考える。

琵琶湖で乾杯！